

6 - 1 伊予灘・安芸灘周辺の地震活動について

On the Seismic Activity in and near Iyonada and Akinada

気象庁 地震活動検測センター

関 谷 溥

Hiroshi SEKIYA

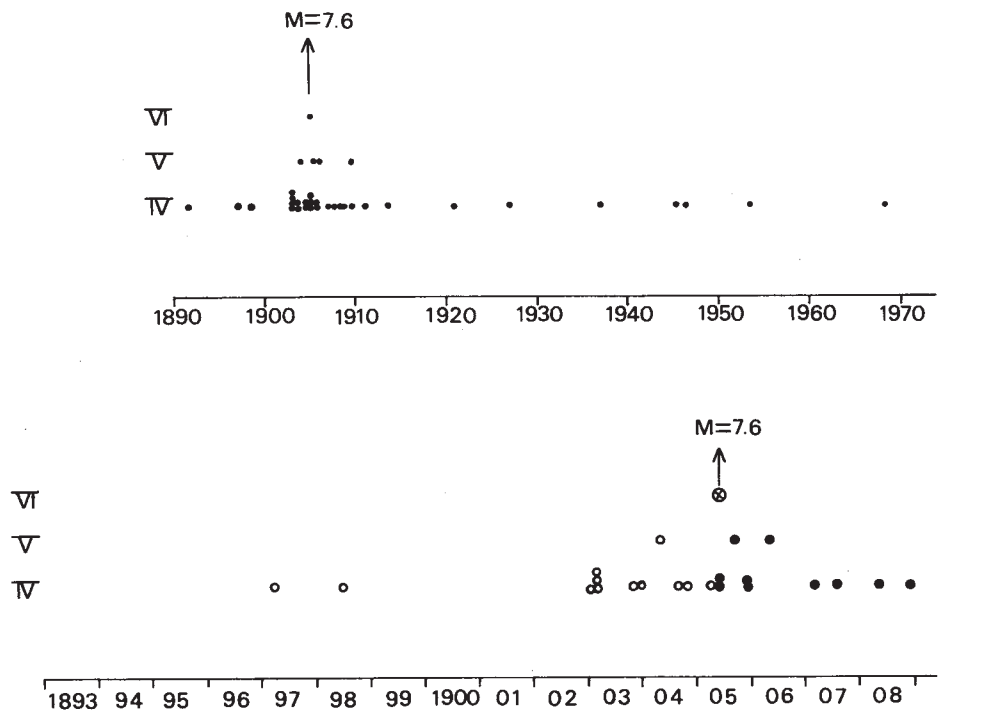
SAMC, Japan Meteorological
Agency

伊予灘・安芸灘周辺の被害地震は歴史的には第1図（茅野1973）のようにたびたび起きているが、1905年6月2日の地震（ $M=7.6$ ）以上は顕著な地震は起こっていない。そして最近の同地域の地震活動は第2図となっている。檀原（1970）はこの地域の被害地震について周期を求め周期 $T = 52$ 年, $\Delta T = \pm 11$ 年, 最終の被害地震から1974年までの経過年数 $Y = 69$ 年, 平均のマグニチュード $M = 7.1$, $\Delta M = \pm 0.2$, $M_p = 7.0$ を求めている。従って、もしこのような周期を仮定すると、現在は次の被害地震が起こってもおかしくない時期にきている。そこで、前の被害地震である1905年6月2日の地震の発生前後の地震活動を調査しておくことは今後の同地域の地震の発生の予知に対して重要であると考えて調査した。第3図は広島・呉・松山の震度観測の資料から、同地域に発生した震度IV以上の地震の発生の状態を調べたものであるが、それによると1905年6月2日の地震（ $M = 7.6$ ）の発生前は図からも明らかなように約2年前から震度IV以上を伴う地震活動はかなり活発であり、現在の状態とはかなり異なっていることがわかった。

参 考 文 献

檀原 毅（1970）：地域別地震の周期性と潜在エネルギー，地震予知連絡会会報第3巻
79 - 87。

茅野一郎（1973）：中国地方の地震活動(-)，東京大学地震研究所，白木微小地震観測所
PP.1 - 18。



第3図 広島・呉・松山の何れかで震度IV以上が観測された地震回数の変動

Fig. 3 Variation of the frequency of occurrence of earthquakes in which seismic intensities 4 or more were observed at Hiroshima, Kure or Matsuyama.